

乾田直播栽培の生育促進技術の開発

福島県農業試験場種芸部

平成11年度春夏作試験成績概要(稲作・農業情報)

平成12・13年福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

水稻-水稻-水稻直播-作型・栽培型-水管理・水分制御

分類コード01-01-75181400

2 担当者

齋藤隆・荒井義光

3 要旨

乾田直播栽培は、移植栽培と比べ出穂期が10日前後遅れるため、主力品種であるコシヒカリやひとめぼれの出穂期は地域や気象条件によって安全出穂期晩限を越え、登熟歩合や品質の低下を招くおそれがある。このことから、乾田直播栽培における生育促進を図るため、早期播種および早期入水について検討した。

- (1) 早期播種区(4月中旬播種区)は慣行区(4月下旬播種区)より苗立ち数が少なかったが、最高分げつ期以降の葉齢は進んでいた。出穂期および成熟期は早期播種により2～3日程度早まった。収量は早期播種区が慣行区よりm²当たり粒数が多くやや多収であった。品質はコシヒカリで早期播種区が慣行区より未熟粒等が少なく良質であった。
- (2) 早期入水区(1葉期入水区)は慣行区(3葉期入水区)に比べ苗立ち数が少なかったが、最高分げつ期以降の葉齢は進んでいた。出穂期および成熟期は早期入水により1日程度早まった。収量は慣行区並であった。品質はひとめぼれで早期入水区が慣行区より乳白粒の発生が少なく良質であった。

以上のことから播種期を4月下旬から4月中旬まで早めると出芽が早まり、出穂期を2～3日早めることができた。また、入水時期を早めると苗立ち数がやや減少するが、出穂期を1日程度早めることができた。早期播種および早期入水の収量、品質は概ね慣行区並からやや優ることから、播種期を4月中旬まで前進させ、入水時期を1葉期まで早めることが可能であると考えられる。

4 その他の資料等

なし